

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100559		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	すずらん 寿楽の家		
所在地	三重県桑名市大字稗田字柳944番地		
自己評価作成日	平成24年11月21日	評価結果市町提出日	平成25年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2470100559-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2470100559-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成24年12月 7日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境に立地し、広い中庭を各フロアから眺める事により季節感を感じる事が出来る上、安全に屋外の散歩に日々出掛けたり地域の店舗に買い物に出掛けたりと、のどかな雰囲気の中で利用者も外出する機会を保ちながら落ち着いた生活を送られています。利用者本位の介護を念頭に置いた理念に基づき、明るい雰囲気を実践しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

二年前に移転し新築された事業所前は一面田畑が広がり、遠くには鈴鹿山脈が一望でき、広い中庭の木々に小鳥が訪れる等、常に四季が感じ取れる素晴らしい環境にある。代表者が、誰もが安心して利用が出来るようにとの強い思いから、低料金(利用者負担金)が設定されている。日々の生活では職員皆で考えた『その人らしく 私らしく 共に笑い 共に生きる』の理念を、書道が達者な利用者の手で書かれたものを玄関に掲げ、利用者一人ひとりの意思を尊重しながら、家庭的な雰囲気の中も笑顔で優しく接し、利用者の表情は明るく穏やかで利用者のペースで暮らしている。又、看護師が配置されかかりつけ医との連携により、日々の健康管理面で家族にも安心感がある。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の趣味や日常生活行動を制限する事無く自由環境作りに努め、各々がその方らしい生活が送れるような理念に基づき、共有・実践している。	職員皆で考えつくった理念を踏まえ、家族的な雰囲気の中、利用者の思いや気持ちを職員皆が共有しながら、利用者一人ひとり自由な暮らしが出来る支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店への外出支援や、地域の行事等にも積極的に参加している。	事業所周辺は民家はなく近所付き合いはないが、近場の散歩時には農家の方と挨拶を交わす等、常に交流している。地域の夏祭イベントや、地域の小学校区単位の自主防災訓練にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的という意味では運営推進会議が話をさせてもらう機会にはなっているが、それ以外にも地域の方との交流し話をする時もあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回定期開催し事業所の近況を報告するとともに、出席者からは地域の情報や助言をいただいたりし、サービス向上に活かしている。	会議は、市・包括支援センター・3地区の自治会長・民生委員等の構成で隔月に開催し、事業所の現状報告と合わせ参加者から活発な意見や助言があり、市の徘徊SOSネットワークの参加や、回想法など運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも機会ある毎に市役所に出向き連携を図っている。申請代行も行う時があるので各関連部署との協力関係も保たれている。	運営上の相談ごとや家族の代行で認定更新申請、生活保護等に関する事、又、利用者自身の権利擁護、成年後見人制度に係ること等、その都度、市・包括に出向き相談連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアを理解して実施できるように事業所内研修を開き、日々のケアに取り組んでいます。	現状は身体拘束に係る事実はない。介護支援専門員兼看護師が講師で定期的に内部研修を開催し、職員は身体拘束とその弊害は理解され、特に精神的な面や言葉掛けに気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度、事業所内にて高齢者虐待防止研修を行い関係者への周知・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて権利擁護や成年後見制度の利用を検討し、実際に権利擁護・成年後見制度ともに活用している利用者もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は解りやすい説明に努め、当然の事ながら必ず不安や疑問点を尋ね、窓口を明確にして対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情申立先を明記・説明し、面会時等意見や要望を気軽に話してもらえる関係作りに努めている。	家族の多くは月に数回面会に来てくれるので、その機会と介護計画見直しの担当者会議(ケア会議)に参加を得られた時に、意見や要望を聞き支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定例カンファレンスにおいて、意見交換等している。また、必要時は随時、話し合いの場を設けている。	管理者とユニット毎のリーダーとは、毎月のカンファレンスやケアの場、お昼の休憩時に気軽に話ができ、出された意見・アイディアは連絡ノートに記録し、随時話し合いの場を設けケアの向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。労働時間や個々の状況を把握し、勤務体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で事業所が多いため、各事業所の連携に努めているが地域の同業者とは運営方針に違いがあるため、交流を図っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とは日々のコミュニケーションを通じ様々な思いを早期に把握できる様努め、意思疎通の困難な方は家族等関係者からの情報を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人だけではなく家族等の困っていた事、今後の心配事など、随時お聞きし共に考え、支援ができるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が職員と家族のような関係を築けており、常に相手の立場に立って思いやりのある共同生活を送って頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に、家族や、職員の出来る事・役割等を把握し密接に連携を図り、家族とともに支援をしていける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族などの協力により、馴染みの方等の面会を促したり、「行きたい所がある」という場合も極力支援する様努めている。	家族や親戚は勿論、知人・友人が気軽に面会できるように心掛けている。併設のデイサービスとの交流、墓参りや行き付けの美容院に出掛ける等、出来るだけ馴染みの関係が継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の係わりについて把握し支援している。他者との係わりが苦手な利用者は、職員が手助けを行い、利用者同士が支えあう場面もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退院などにより退所された後も必要に応じて本人・家族の状態や今後のサービス利用における相談を法人内で行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望を聞かせて頂けるような話しやすい雰囲気作りや関係作りをし、個々の思いを受け止め、意思の把握に努めている。	回想法を用いたり、利用者と一対一になる通院の付き添う時間に、ゆっくり話を聞きながら思いや意向を聞いている。又、その日の体調や表情からも利用者個々の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、事前に本人・家族・担当者等に今までの暮らしの様子をお聞きし、生活歴や馴染みの物、昔の出来事等の把握に努めている。職員全員が閲覧でき、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを徹底し、心身の状態や日々の過ごし方の変化など把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の話し合いはできているが、その都度家族を交えてケアについての話し合いはなかなか機会が少なく、電話での連携も多いが現状に即した計画ができるよう努めている。	介護計画の支援内容は毎月モニタリングし、毎月定例の担当者会議で計画作成担当者・介護職員と、出来るだけ家族の参加を得て話し合い、必要があればその都度、定期的には3～6ヶ月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日課表等に日々の様子や気づきを記録し、その内容を踏まえて、介護計画の見直しや実践内容の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に応じた買い物や外出を支援している。また、定期往診の他、受診やリハビリの希望にも協力医療機関を中心に実施している。その他、外部の行事への参加等、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店への買い物や訪問理美容等、入所前と変わらぬ暮らしをより一層楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人の入所前の主治医との連携も大切にするとともに、グループホームに協力して頂いている地域の協力医に支援して頂いている。	利用者と家族の希望するかかりつけ医で受診している。受診は家族の付き添いとなっているが現実には大半事業所が付き添い受診し、受診結果は家族に報告し共有している。看護師の配置と協力医による月1回の往診があり、安心出来る医療支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師及び、法人内の看護師との連携に努め、緊急時対応、夜間対応、及び相談業務を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携を図り、早期退院できるように情報交換、受け入れ態勢等関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時点から家族とは終末期に対する考えを話し合い、終末期になった場合は家族や主治医と連携を図り意思の確認をし、支援している。	重要事項説明書に『重度化した場合における対応に係る指針』を記載し、利用の際家族に説明している。利用者の心身の状態を見ながらその都度、家族や医師と相談連携しながら、出来る限り終末期まで支援する方針であり、職員も同じ想いである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを基に、AEDの使用方法含む緊急時対応を看護師により指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行っている。毎年行われる地域の合同防災訓練にも参加し、近隣との協力体制を築いている。	地域の小学校区単位の自主防災訓練に参加、9月に停電時の災害を想定し2階から非常階段を使っての避難訓練を実施したが、かなり困難であったことを受け、夜間を含め利用者を安全に避難することに課題を残している。	大地震を想定し、利用者と職員が昼夜を問わず安全に避難できるように、日々出勤職員個々の役割を明確にし、災害発生時に初期動作が的確に出来るよう、定期的に机上も含めての避難訓練が実施されることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会・研修会を開催し、言葉かけや対応に関して利用者の誇りやプライバシー保護への意識を持てるようにしている。	多くの居室のドアがオープンになっていたのが少し気になるが、トイレ誘導、排泄時や入浴時には、羞恥心・プライバシーを害しないような声掛け・言葉遣いを、失禁の際には他の利用者に気付かれないように必ず居室で行う等気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き取れる様働きかけて、こちらの押し付けにならない様に努めているが、自分の思いを話せる方ばかりではないので難しい面もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを尊重し、思い思いに過ごされている。レクリエーションにしてもどちらかというと皆一緒にというより皆のペースにあわせ、個別レクになる事が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的な整髪や髭剃りはもちろん、定期的に訪問理美容もきている。また、馴染みの理美容でカットや髪染めされる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事が限られているが、参加して頂ける様努めている。重度な方の中で現状出来ない方については、ほぼ職員が行っています。	事業所では朝食(洋食)とおやつづくり、昼食と夕食はご飯のみで、他は業者で献立・調理された栄養バランスの取れた食事が用意され美味しい食事となっている。	利用者の好みを聞きながら時々献立に取り入れる、朝食に時々和食を入れる、偶に雰囲気を変えての外食等、これまで以上に食事が楽しみとなるような工夫をされる事を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	歯の状態が悪い方、飲み込む力が弱い方には食事形態を刻みやミキサー食にしたり、個々の状態・能力・習慣に応じた支援を行っている。水分補給にも注意をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや誘導により、歯磨き等の口腔ケアは食後の習慣になっている。食事前の嚥下体操も行い、歯科医師の往診などの連携もとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の状況パターンを把握し、職員間で情報を共有し一人一人に合わせた声掛けや誘導で出来るだけトイレで排泄できる様支援している。	排泄記録を基に、日々寄り添うケアから表情やしぐさを見ながら、周囲に気付かれぬように一人ひとりに合った声掛けと誘導で、トイレでの自立排泄が出来るように支援している。本人の希望で居室にポータブルトイレも用意してある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを踏まえた上で、個々に応じた運動や水分摂取、下剤の使用を主治医・看護師と連携し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3ユニットで入浴日時を協力し、極力本人の希望に沿った支援を行っている。	ユニット毎に(月、水、金)・(火、木、土)に利用者の体調や希望に合わせて平均週3回、時間の制限をせずゆっくりの入浴となっている。時には有名な温泉気分の温泉の素や季節を感じる柚子湯、菖蒲湯で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な環境の中で、日中は散歩等の運動やレクリエーションにて活動を促し、基本的な生活リズムは保てるよう心掛けていますが、個々の意思も尊重し、昼寝をされたりする方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携により、その方に適した薬の服用を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物に出掛けたり、日常の家事を共にしたりと、一人一人の能力に合わせ、役割や楽しみを作ったりしながら気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外の散歩や買い物、季節の花見等、戸外に出掛けられる支援を行っている。また、プライベートな外出についても家族と連絡調整しながら実施している。	天気がよければ、毎日事業所の周辺の田んぼ道の散歩コースを散策し、季節毎の野花を摘み持ち帰って居間に飾っている。又、広い事業所内の中庭は絶好の外気浴の場となっている。コンビニへの買い物や季節毎に桜やコスモスの花見等、多くの外出支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や能力に応じて、お金を所持して頂き、使えるよう支援させてもらっている利用者もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行為が可能な方に対しては、支援は行われています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫が行われている。	居間兼食堂は広くて天井は高く、両側に大きな窓があり明るく開放的である。大きな窓からは中庭の木々や訪れる小鳥を、外に目を向ければ田んぼや遠くの鈴鹿山脈が一望でき、季節感が感じられ居心地良く過せるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間が交流の場所となっており、皆が思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の趣味や好みに合った居室で過ごして頂ける様、家族とも話し合い使い慣れたタンスや時計等馴染みの物も持ってきていただき使用してもらっている。	各居室とも大きな窓があり明るい。希望があれば何でも持ち込みができ、テレビや使い慣れたタンス、鏡台、小物が持ち込まれ好みの飾り付けがされている。壁にはあまり飾りをしないで、それぞれシンプルな部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部にて安全はもちろん確保されており、自立した生活が送れるように各居室も家具の配置等工夫している。		